

琉球大学医学部は、日本で最も新しい国立大学医学部として1981年(昭和56年)に設立されました。医学部には医学科と保健学科が、大学院には医学研究科(修士・博士課程)と保健学研究科(博士前期・後期課程)が置かれています。医学科は、2010年(平成22年)に大学院講座化されました。

琉球大学医学部と琉球大学病院は、2025年(令和7年)、宜野湾市西普天間地区に移転しました。移転の目的は、新キャンパスに「沖縄健康医療拠点」を形成し、沖縄県の健康長寿の復活と産業振興を図ることです。①高度医療・研究機能の拡充、②地域医療水準の向上、③国際研究交流、医療人材育成の3つを柱とした構想が国主導で進められました。

教育



本医学部では、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、近年の医学・医療の急速な進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師、保健医療従事者、および研究者を育成しています。また、島嶼県沖縄における地域完結型医療に貢献できる人材を養成するために離島やへき地における病院実習を科目に設け、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる人材を養成するために海外で臨床実習や医科学研究を行えるようにしています。このような本医学科の医学教育プログラムは、2018年、日本医学教育評価機構(JACME)から評価基準に適合していると認定されました。大学院では、近年の医学・保健学のダイナミックな変化に対応できる次世代を担う優れた人材を育成しています。

研究

研究面では、我が国唯一の亜熱帯気候であり島嶼環境である沖縄県の地域特性を踏まえて、唯一無二の特色ある研究を推進しています。具体的には、亜熱帯環境下における感染症・寄生虫学研究、沖縄の健康長寿の復興を目指した医学研究、沖縄の生物資源を活用した創薬研究、沖縄に特有の希少疾患の研究、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学研究、アジアを主とした国際保健学研究などを行っています。これらの研究を支援する組織として、2015年に再生医療研究センターが、2016年に先端医学研究センターと沖縄バイオインフォメーションバンクが医学部内に設立されました。



社会貢献・国際交流



本学部と本研究科は、医師、保健医療従事者、および研究者を育成することで医学・医療に貢献しています。医学科では2009年から沖縄県の修学資金制度のもとで地域卒の学生を受け入れており、現在、地域卒の第1期生は卒後11年目の医師になっていて、ようやく沖縄県の地域医療への本格的な貢献が始まったところです。本医学部は、国際性豊かな医学部として発展させることを基本目的としており、本医学部と本研究科は、国際研究交流を積極的に推進しています。医学科の臨床実習では、北米、欧州、アジアの医学部と提携して学生を相互に派遣しています。大学院では、大学院生に海外での研究の機会を与えたり、外国人を大学院生として受け入れたりしています。また、最近、保健学研究科に、JICAの留学生を対象とした英語コースを新設しました。

3 教育・研究の特色

医学教育企画室

医学教育企画室(OME: Office of Medical Education)は医学教育の質の向上を図ることを最大のミッションとしています。現在の医学教育では、医学の知識と確かな技術を基盤として、患者中心のケア、チーム医療の推進、継続的な学習と自己研鑽が求められています。OMEは、そのような時代の要請に沿った教育を提供するため、カリキュラムの改善や評価、学生主導の学習法の推進、臨床実習の支援、全国的な共用試験の支援を行っております。具体的には、CBT(コンピューターを用いた医学知識に関する試験)やOSCE(臨床技能と能力を評価するための試験)などの試験の支援、多職種連携のためのシミュレーション演習、将来のキャリアを考える医学概論、患者・家族と接する実習、離島地域病院実習、Team-Based Learning(チームでの学習を重視した教育法の一つ)形式での

学習、参加型臨床実習の調整、医学教育に関する教員研修などです。卒業試験に代わる医師国家試験形式の総合試験の実施にも関わっております。

また令和5年度からは、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業も担当しております。専任教員3名と医療の各領域を代表する38名の企画室教員(兼任)が医学生と向き合い、医師や医療系専門職の育成に努めております。



長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。

学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療ができるよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域

病院や保健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点を養っています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を抱える東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。



公衆衛生看護実習 公民館で学生の健康教育

アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また、保健学研究科の特別プログラム(Okinawa Global Health Science Program)は、JICA(国際協力機

構)開発大学院連携プログラムにも登録されており、アジア、太平洋、アフリカ各国から多数の留学生を受け入れています。この受け入れはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進していく中で実現したものです。留学生だけでなく日本人大学院生の特別プログラムへの積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修了生は、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改革力と生涯学習力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症など沖縄の地域に根ざした問題、近年著しく進歩している再生・再建分野の研究、ゲノム解析とその医療への応用等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優

れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。また、がん看護専門看護師養成コース、学校保健ヘルスプロモーションコース、Okinawa Global Health Science Program をもち、専門性の高い看護師養成に力を入れています。

臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院は、地域医療の中核を担うとともに、「病める人の立場に立った質の高い医療の提供と、地域・社会に貢献する優れた医療人の育成」という理念のもと、臨床教育にも力を入れています。学生から研修医、専門職として活躍する医療人まで、それぞれの段階に応じた教育プログラムを提供し、実践的スキルと豊かな人間性を備えた医療従事者の育成を目指しています。

医学部学生には、医学教育企画室が中心となり、地域医療実習、臨床実習、クリニカルクラークシップの実践や、指導医のFDを行っています。

初期研修医に対しては、臨床研修センターが「医師として必要な基本的臨床能力を身につけ、全人的かつ科学的根拠に基づく医療の実践」を目的に初期研修を運営し、

教育熱心な指導医のもと、社会のニーズに応える医師の養成を図っています。

専門医や看護師、薬剤師、技師などの育成では、キャリア形成支援センターが中心的役割を担い、専門医の育成・生涯教育、多職種のキャリア形成を支援しています。専門医制度対応、指導医育成、研修会の企画・実施、復職支援や生涯教育支援など、多岐にわたるサポートを提供しています。また、医師に限らず、看護師、薬剤師、検査・放射線技師、リハビリセラピスト、臨床工学技士など、多職種を対象とした教育・研修も計画的に実施し、質の高いチーム医療の実現を目指しています。特に看護師特定行為研修に力を入れ、多くの修了生を輩出しています。

シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に開設し、医学部・病院移転に伴い、令和7年に現在の場所に設置された医療シミュレーション教育施設です。シミュレーターを用いての技術の習得や、シミュレーション演習を通じてチーム医療の向上を目指したトレーニングなどを行うことができます。そうした訓練は沖縄県内の医療水準の向上にも貢献しています。学部教育においては、一年次よりシミュレーションを取り入れた演習を行なっています。

そのほか、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けのトレーニング、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高校生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内外の医療機関や医療教育施設などから幅広く利用されています。

年間およそ延べ1万人以上の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。

各種情報については<http://okinawa-clinical-sim.org/>をご参照ください。



管理棟 シミュレーションセンター